

令和7年7月29日

No. 250

日立理科クラブ通信



日立理科クラブ

「理科室のおじさん」を訪ねて2 日立市立宮田小学校

今回の「理科室のおじさんを訪ねて」は、宮田小学校（皆川渉校長）の鈴木 康友（すずき やすとも）さんです。

鈴木さんは、日立市の出身です。子どもの頃は、いろいろなことに興味をもち、挑戦するお子さんでした。親戚の家で物置にあったテレビを分解してしまったこともあります。もちろん元通りにはできなかったそうですが、プラモデル作りもとても好きで、組み立て図も見ずにどんどんやってみようとしていました。

なお、右の写真で、鈴木さんの背景にある水槽には、メダカがいます。皆川校長先生が持ってきてくれたメダカだそうです。

理科クラブに入る前は、日立製作所系列の会社で、電気制御設計の仕事をしていました。古い機械を、電気制御で高精度の専用・加工専用機に改修する仕事で、最先端のおもしろい仕事です。アメリカや東南アジア、台湾など海外への出張も多くありました。鈴木さんは、今でも海外にとっても興味を持っていて、海外旅行に出かけることも多いです。そのために、学校ではALTにも積極的に声をかけ、英語の勉強をしています。

学校では、「理科おじさん」と呼ばれ、時間内に実験が終わるように可能な限り準備し、直ぐにとりかかれるようにしています。グループごとにトレイに器具等を準備しておくこともあります。そのために、2つの理科室や理科準備室はきちんと整頓され、準備しやすくなっていました。ただし、6年生は中学生になる準備として、実験の準備もできるだけ自分たちでできるようになってほしいと思っているそうです。

取材の日は学年担当の先生が鈴木さんを訪れ、9月・10月の授業の打合せをしていました。先生方がどのような授業をしようとしているのかよく聞いて、その手助けをしているように思いました。レゴやマイクロビットなども先生方の要望に応じて手助けをしています。先生方にとってとても頼りになる存在だと思いました。

鈴木さんは、児童に実際のものに触れて感じてほしいと思っています。例えば、顕微鏡で、葉の気孔やイカダモを観たときの児童の喜んだ顔や、すごいという声を大事にしています。今の世の中はソーシャルメディアを使って簡単に情報を得ることができますが、体験に勝るものがないことを伝えようとしているようです。

児童から『ありがとうございます』とか『こんにちは』と声をかけられたり、お礼を言われたりするときにやりがいを感じるそうです。

最後に、宮田小学校のよさを聞きました。宮田小学校の児童は、とても礼儀正しいと話していました。理科室は、通常、鍵をかけないそうですが、いたずらをされることもないそうです。

また、児童は、よく質問もするそうです。その質問を楽しみにしているようです。

この日、理科室の清掃に来た児童や廊下で出会った児童たちも、とても落ち着いた生活をして、また、挨拶が素晴らしかったです。よい環境の中で生活しているように思いました。



「理科室のおじさん」鈴木康友さん



整理された理科室



整理された準備室



理科室で